

トマトキバガの誘殺数・被害が増加しています！
ほ場をよく見回り、発生を確認したら、直ちに薬剤防除してください！

1 作物名 トマト、ミニトマト

2 発生現況

- (1) フェロモントラップ調査において、過去2か年より早い4月下旬から誘殺が確認されており、6月後半以降増加傾向にある(図1)。
- (2) 5月中旬頃から県内各地でトマトの葉や果実で被害が確認されはじめ、7月以降拡大している。
- (3) 今後の平均気温は平年より高い予報であり、世代のサイクルが早まり、発生密度が高まる可能性がある。

3 トマトキバガの形態と被害の特徴

- (1) 幼虫は終齢で約8mmと小さく、体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある(写真1)。
- (2) 成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である(写真2)。
- (3) 葉の食害は面状であり、ハモグリバエ類の食害は線状であるため区別できる。また、果実では、表面から食入し、数mm程度の孔を開ける(写真3～6)。
- (4) ばれいしょ、ナス、インゲンマメ及び様々な野生のナス科植物も寄主植物として確認されている。

4 防除のポイント

- (1) 前作にトマトキバガが発生したほ場では、育苗期後半～定植時に薬剤防除を行う(表1)。
- (2) ほ場をよく見回り、早期発見に努め、幼虫による食害が見られたら直ちに薬剤防除を行う(表2)。
- (3) 海外ではピレスロイド系(IRACコード:3A)やジアミド系(IRACコード:28)などの殺虫剤で薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、薬剤を使用する際は同じIRACコードの薬剤を連用しない。
- (4) 本虫は茎葉やがく片等に産卵するので、不要な葉やわき芽を除去する(写真7)。
- (5) 施設栽培では、他の害虫対策と併せてハウス入り口や開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を設置し、本虫の施設内への侵入を防ぐ。
- (6) 食害された葉や果実は本虫の発生源となるので、土中深くに埋設するか、ビニル袋等に密封して本虫を死滅させたのち、適切に廃棄する。

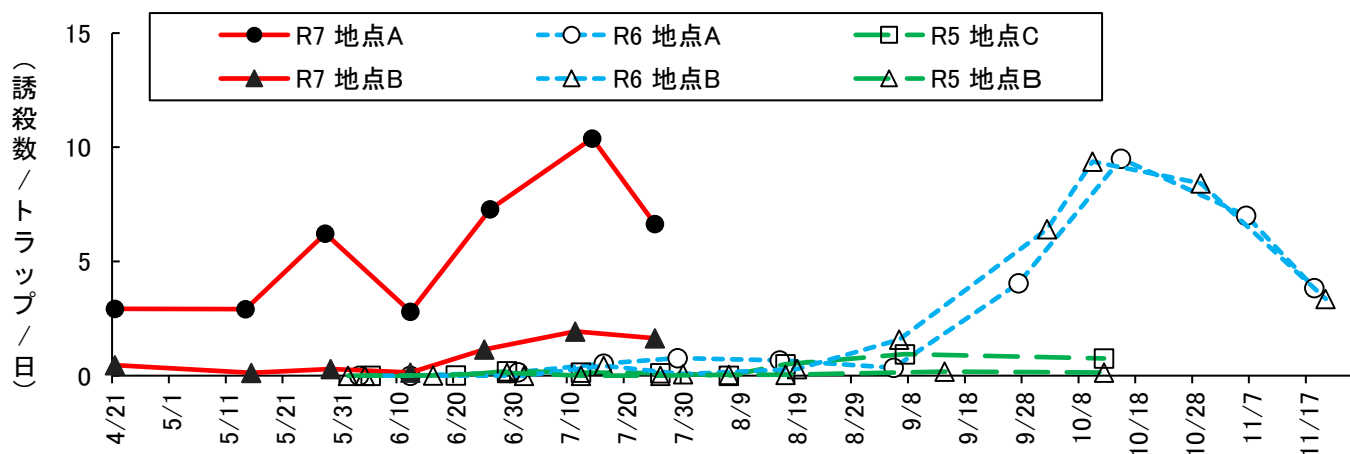


図1 トマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数の推移

表1 育苗期後半～定植までの登録農薬(令和7年7月23日現在の登録情報に基づく)

登録作物		IRAC コード	系統名	商品名	使用方法	希釈倍数 ・ 使用量	本剤の 使用回数	使用時期	適用病害虫				
トマト	ミニトマト								オオタバコガ	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類
○	○	28	ジ'アミト'系	ブリロツソ粒剤オメガ	株元散布	2g/株	1回	育苗期後半～ 定植時		○	○	○	○
○	○			ベリマークSC	灌注	400株当たり25mL				○	○	○	○
○	○			ブレバソフフロアブル5	灌注	100倍					○		○

表2 定植後に使用可能な登録農薬(令和7年7月23日現在の登録情報に基づく)

登録作物		IRAC コード	系統名	商品名	使用方法	希釈倍数 ・ 使用量	本剤の 使用回数	使用時期	適用病害虫				
トマト	ミニトマト								オオタバコガ	アザミウマ類	コナジラミ類	アブラムシ類	ハモグリバエ類
○	○	5	スピ'ノジ'系	ディアナSC	散布	2,500～5,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○	○注1		○
○	○			ラディアントSC	散布	2,500～5,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○	○注1		○
○	○			ダブルシューターSE	散布	1,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○	○		○
○	×	6	ア'ルメク'チン系 ミ'ルバ'ク'チン系	アグリメック	散布	500～1,000倍	3回以内	収穫前日まで		○	○		○注2
○	○			アニキ乳剤	散布	1,000倍	3回以内	収穫前日まで	○注3	○注4	○		○注3
○	○			アフーム乳剤	散布	2,000倍	5回以内	収穫前日まで	○		○		○
○	○	11A	生物農薬 (BT剤)	エスマルクDF	散布	1,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)	○注5				
○	○			ゼンターリ顆粒水和剤	散布	1,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)	○注5				
○	○			チューンアップ顆粒水和剤	散布	2,000倍	—	発生初期(但し、 収穫前日まで)	○				
○	○	13	ピ'ロ'ル	コテツフロアブル	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	○	○注4			
○	×	22A	オキザ'ジ'アジン	トルネードエースDF	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで	○				
○	×			ファイントリムDF	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで	○				
○	○	22B	セミカルバ'ジ'ン	アクセルフロアブル	散布	1,000倍	3回以内	収穫前日まで	○				
○	○	28	ジ'アミト'系	フェニックス顆粒水和剤	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで	○				
○	○			ブレバソフフロアブル5	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	○				○注6
○	○			ベネビア0D	散布	2,000倍	3回以内	収穫前日まで	○	○	○	○	○
○	○			ヨーバルフロアブル	散布	2,500倍	3回以内	収穫前日まで	○	○	○	○	○
○	○	30	イ'ソキサ'リン系	グレースシア乳剤	散布	2,000倍	2回以内	収穫前日まで	○	○	○		○
○	○	UN	ピ'リタ'リル	ブレオフロアブル	散布	1,000倍	2回以内	収穫前日まで	○				○

☆農薬の使用前には必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

☆抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤を連用しない。

注1：希釈倍率2500倍での登録、注2：トマトハモグリバエでの登録、注3：希釈倍率2000倍での登録

注4：ミカンキイロアザミウマでの登録、注5：野菜類での登録、注6：希釈倍率1000～2000倍での登録

農薬危害防止運動実施中！

《お問い合わせ先》宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

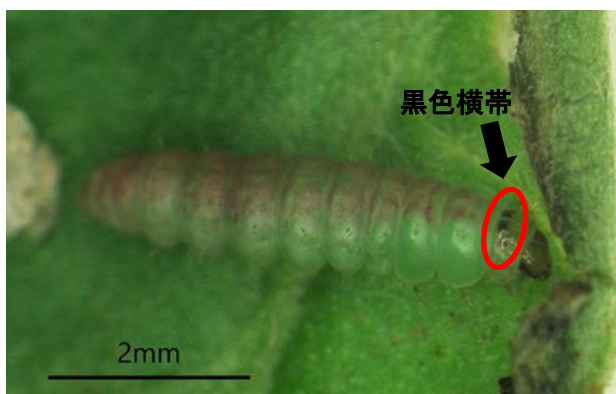


写真1 トマトキバガの幼虫



写真2 トマトキバガの成虫



写真3 トマトキバガによるトマト葉の食害痕



写真4 ハモグリバエによるトマト葉の食害痕
(原図: 宮城県農業・園芸総合研究所)



写真5 トマト葉の食害痕・幼虫・糞

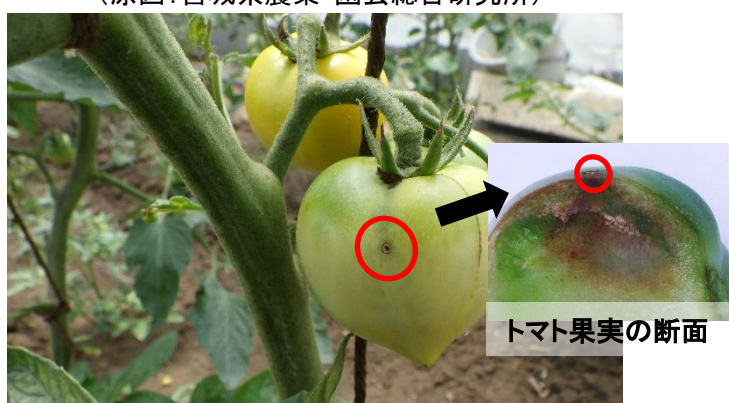


写真6 トマト果実の食害痕



写真7 トマトキバガの卵



参考写真 トマトキバガの蛹